



銀漢亭日録

伊藤伊那男

vol.2 (2010.11.14~12.16)

- 11.14 (日) 大学時代、同人誌を出していた先輩、伊藤俊明、初恵夫妻より、「銀漢」創刊号の祝いにと、モンブランの万年筆到来す。佐野の「春耕」同人島田ヤスさんから届く。
- 11.15 (月) 先週、孫の華子成城学園初等学校合格。本日、龍正、同幼稚園合格。客少なし。雨。発行所では、武田夫妻連くまで「萩」会員の方々への書類発送等でおおわらわ。「俳壇」新年号巻頭作品7句を送る。
- 11.17 (水) 繁忙。三水会、登山の会、オリックス時代の友人グループなど来店。「銀漢」専用の便箋、封筒2種、名刺出来上る。
- 11.18 (木) 「銀漢句会」。終って25人来店。「天為俳句会」編集部7人も。太田うさぎさん「豆の木」賞受賞と。
- 11.19 (金) 「春耕」同人升本行洋さんより、白鷹特撰酒2本、お祝いとして到来。近況とお礼の手紙を出す。小・中学校時代の友人、駒ヶ根市から2人来店。郷里の食べ物話など。今年は松茸大豊作で東伊那の農協売店では山積のバーゲンセールであった由。垂涎。
- 11.21 (日) 「萬緑」選者、奈良文夫氏の句集「苺の紅」句集評、角川「俳句」2月号用執筆。立川の病院に母を見舞う。兄夫婦と一緒に日野の姉を訪ねて酒。17:00長女・桃子の家。孫達の入学祝いと次女・杏のつわり終了祝い。すきやきなど。
- 11.23 (火) 勤労感謝の日。「火の会」にて鎌倉吟行。14人。快晴。鶴岡八幡宮、白旗神社、鎌倉宮などめぐり、鎌倉虚子立子記念館へ。その手前の天野小石さん実家にて句会と宴会。日影茶屋より弁当、刺身など取り寄せてもらう。越乃寒梅うまし！ 解散後、鎌倉駅前飲み直すという賤しさ。
- 11.25 (木) 雨。一平、小石、敦子さん達がカウンターで突然の句会。
- 11.26 (金) 慶大茶道会の先輩が2人来店。購読会員になってもらう。シャンパン2本空く。21:00頃、星野高士、鳥居真里子、しなだしんさん他来店。先日、松川洋酔さんが鎌倉の俳句大会で会って、高士さんを店に誘ってくれたもの。
- 11.27 (土) 「鎌倉句会」日本橋・鮎の与志喜。席題は、狐火、襖、冬の蝶。兼題と合わせて10句出しのあと小宴。鯛大根、牡蠣の土瓶蒸しなど。鮎。18:00、発行所に戻り、村田脩先生夫人・郁子さん、ご長女・角佐穂子さんを迎える。当方、禪次、大和、孝子。あと咸亨亭にて会食。村田先生の思いつき話など。
- 11.29 (月) 「湯島句会」。小野寺清人氏の南鮎刺身、志乃田寿司、豚汁など。40名、出句は78名。23:00お開き。河合誠、しなだしん、小石さんと餃子屋へ。
- 11.30 (火) 茨木和生主宰「運河」の同人評一年間執筆依頼あり。初回分送る。
- 12.01 (水) 発行所では設立総会の打合せ。出席者140人程と。真理子さん座長。小島健さん来店。
- 12.02 (木) 客4人。開店以来最悪の売上げ。
- 12.03 (金) 発行所では創刊号最終校正。及び2月号の割付け遅くまで。
- 12.04 (土) 伶輔(5人目の孫)宮参り。明治神宮神楽殿。桃子一家と箱根、天成園。一年前のリニューアルオープン時のパンフレットの写真を宮澤が撮影した。韓国式垢擦り。因幡の白兔の心地。
- 12.05 (日) 11:00過ぎのロマンスカーにて新宿。方南町にて「長月・忘年句会」。あと浅酌。
- 12.06 (月) 朝から2月号の選句。
- 12.07 (火) 発行所にて「十六夜句会」。指導は大和さん。終って店で談笑。「月の匣」水内主宰、加茂住職他。23:00に閉める。地元でイタメン屋。冷たい雨。
- 12.08 (水) 発行所にて昼「梶の葉句会」。こしだまほさんの歌舞伎仲間の忘年会。コワイロなど聞こえて楽しい。オリックス時代の神村君3名で来店。超繁忙。展枝、いづみ、淳子さんの手伝い有難し。
- 12.10 (金) 午後編集打合せ。武田、川島、大西氏。
- 12.11 (土) 2月号選句終了。11:00発行所にて運営会議。13:00「銀漢本部句会」。42名。あと和民にて親睦会。そのあと喫茶店にてとうとうしてしまふ。不甲斐ないが土曜日は疲れている。
- 12.12 (日) 早朝から2月号の原稿執筆。全部仕上げて夕方から仕入れ。店に運び込む。新宿にて少し飲む。マッサージ機に乗って「坂の上の雲」を見て21:00過ぎ就寝。
- 12.14 (火) 「火の会」。久々、梅田津さん(「銀化」)が来て選句に参加。来月から復活と。
- 12.15 (水) 昼過、編集室に「銀漢」創刊号届く。武田編集長と手伝いの方々がすぐ発送手続きに入る。感慨あたら。よくぞここまで！ 感謝。小島正氏、年末の挨拶に寄ってくれる。厚木名物の豚の味噌漬。「春耕」幹部と印刷のダイワクリエイト忘年会。営業中抜け出して30分程参加。その後、二次会に寄ってくれる。
- 12.16 (木) 18:00から義弟の仲間7人忘年会。20:30交替して「銀漢句会」あとの親睦会24人。武田編集長と馬場龍吉氏をゲスト。杉阪大和さんが久保田・萬寿、伊藤政三さんが春鹿・封印酒、こしだまほさんが飯田の地酒・春田打を差し入れ。カウンターでは一平、真砂年さんらの勉強会と超繁忙。結局終電で寝過ごして桜上水。

第二回「銀漢俳句会」本部吟行会のご案内

本部吟行会は「創刊号」の年間予定表に記載の通り、本年は二月五日(土)と九月三日(土)の二回を企画しております。第一回は二月五日(土)、春まだ浅い神奈川県小田原にて吟行すること致しました。

伊藤伊那男主宰よりひと言。「小田原は後北条家(早雲)の滅びの地。と同時に関東へ入るための要衝の地であり、豊臣秀吉の「一夜城」の攻略の逸話など様々な歴史を持っている。そうした歴史の面白さと気候の温暖さに魅了されて、北村透谷、谷崎潤一郎、林芙美子などの文人が多く暮らした地でもある。それに加えて「魚」が美味しい。今回の吟行では、皆さんにこれらの風土を取り込んで作句できる力を蓄えて頂きたいと思っています」この時期小田原城址では「梅まつり」の真っ最中です。ゆつくり梅の花を楽しみながら、小田原文学館なども訪問したいと思います。スケジュールの詳細を詰めておりますので、参加ご希望の方は幹事の方へお問い合わせ下さい。

幹事：銀漢俳句会(谷口いつみ) FAX:03-6272-4524

e-mail: ginkan_haikun@ybb.ne.jp

集合：十時三十分 小田原駅コンコース観光案内所前
句会場：小田原市民会館(予定)
懇親会：海鮮居酒屋「さんせん」 電話 0465-21-5766

『銀漢』発行所事務室をご利用ください

現在結社誌の編集や運営会議等を行っている銀漢亭二階の発行所事務室。このスペースを同人や会員の方々にも、ぜひ有効活用して頂きたいと考えています。

すでにいくつかのグループが句会や勉強会に利用中。まだまだスケジュールには十分余裕がありますので、お気軽にお問い合わせください。

①時間

■午前十時～午後一時

■午後一時～午後四時

■午後六時～午後九時

三つの時間帯があります

②人数

最大十二名までご利用いただけます。

③使用料

一時間帯につき、一名様五百円の使用料を申し受けます。

④申込み方法

三ヶ月前より申込みを付けます。まず、電話かFAXにて、希望日の利用状況をご確認ください。

◎電話 〇三(三三六四)七一〇七【銀漢亭】

◎FAX 〇三(六二七二)四五二四

☆銀漢亭にて直接お申込み頂くこともできます。